地しんに備えて私ができること

御津北部小・5　坂本夢歩

私は夏休みにバスケットボールのキャンプのため、静岡県の焼津市へ行き、巨大地しんによりひなんをするという貴重な体験をしました。

キャンプ二日目の朝、カムチャツカ半島でマグニチュード八・七の巨大地しんが発生しました。全国各地に津波警報が出て、静岡県内も最大三メートルの津波予想が出されました。私が行っていた焼津市の体育館は海のすぐそばだったので、ひなん指示が発令されました。

キャンプをしている宿はく施設は、テレビなどもないので練習の準備をしながら友達としゃべっていたら、急に館内放送が流れて、四階の体育館にひなんするように言われました。私は、

「え、なんだろう。ひなん訓練でもしているのかなあ。」

と友達と話しながらひなんしていると、みんなの携帯電話から警報音がいっせいに鳴りひびき、これは訓練ではないのだとわかり、急に緊張感が走りました。ひなん場所に着くと、キャンプに参加した人以外に、地いきの人も集まっていました。そしてコーチから初めて、地しんが発生したこと、ひなん指示が出ているのでしばらくここで待機することを伝えられました。

しばらくするとコーチが、

「津波がいつ来るかわからないから、今、チームのみんなで過ごしていること、四階にひなんしていること、ちゃんと無事でいることを家族に伝えてください。」

と言われました。私はとまどいながらも、すぐにお母さんに連らくをしました。すると、すぐに返事が来ました。すごく心配した様子で、夜きん明けのお父さんが、焼津まで行けるかどうかわからないけれど、ねないで向かって来ていると知らされました。

情報を知る手だんがなかったので、状きょうがよくわかっておらず、私は、愛知県はだいじょうぶなのかを心配していました。しかし、焼津市の方が海が近いので危険だということが分かり、急にこわくなりました。早くお父さんに会いたいという気持ちや、家族に会いたいという気持ちが、だんだん強くなってきました。もうすぐ着く、と言われても、時間が進むのがすごくおそく感じました。

そして、お父さんがやっと四階の体育館に来てくれました。お父さんの顔を見たしゅん間、ほっとしたのか、それまで緊張して固くなっていた体の力が一気にぬけていくのを感じました。

後から、お父さんが道路のところどころが通行止めになっていた中むかえに来てくれたことやお母さんが仕事も手につかないくらい

心配していたこと、家族以外にも、おじいちゃん、おばあちゃん、親せきのおばさんまでもが、心配して連らくをくれていたこと、自分で想像していたよりもたくさんの人がひなんをしていたことなど、いろいろなことを知りました。

ふだんから地しんに対して、学校でひなん訓練をしたり、家族とひなん場所について話をしたりしていたので、なんとかなるだろうと思っていましたが、実際に起きてみると、訓練とはまったくちがい、興ふんして頭が真っ白になり、とてもあせり、冷静ではいられないことが分かりました。

日本は地しん大国なだけに、いつこういう状きょうになるかは分からないので、いつ地しんが起きても後かいしないようにしたいです。ふだんから、家族だけでなく、おじいちゃんやおばあちゃんにも「ありがとう」の気持ちを伝えて、一日一日を大切に過ごしていきたいと感じました。これからは生活の備えだけでなく、心の備えもきちんとしたうえで、過ごしていきたいと思います。

令８・１